



2020年

ネクタリン病虫害防除暦

J A 中野市営農センター

回数	散布日	散布時期	散布薬剤（水 100 ㍓当り）	収穫前 使用時期	使用 回数 (以内)	散布量 (㍓)	対象病虫害 (発生病害虫)	注 意 事 項
1	月 日	発芽前	(水 9 8 ㍓) スプレーオイル 2 ㍓ キンセツ水和剤 80 1 0 0 g	発芽前 開花直前	— 5 回	3 0 0	せん孔細菌病 (縮葉病) カイガラムシ類 ハダニ類	①ウメシロカイガラムシ 発生園は、アブロードフロアブルの 1,000 倍（7 日前、2 回）を加用する。 ②キンセツ水和剤 80 に代えて、石灰硫黄合剤の 10 倍（発芽前）でもよい。＊石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールにかからないよう注意する。 ③せん孔細菌病 発生園は、開花前にキンセツ水和剤 80 の 1,000 倍（開花直前まで、5 回）を特別散布する。
2	月 日	開花直前	アビオン E IC ボルドー 412 1 0 0 m㍓ 3. 3 kg	—	—	3 5 0	せん孔細菌病	* せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は、こまめに切除する。（開花期～6 月） ①せん孔細菌病 発生園は、開花直前～6 月の散布まで、展着剤にアビオン E の 1,000 倍（固着性展着剤）を使用する。 ② もも混植園 黒星病（うどんこ病）発生園は、落花直後の散布にコロナフロアブルの 500 倍を加用する。 ③アブラムシ類 発生園は、落花直後の散布にウララ DF2,000 倍（7 日前、2 回）を加用する。 ④ もも混植園 うどんこ病 発生園は、5 月中旬の散布に、ストロビードライフロアブルの 2,000 倍（前日、3 回）を加用する。
3	月 日	落花直後	展着剤 1 0 m㍓ サムコフロアブル 10 2 0 m㍓ トレノックスフロアブル 2 0 0 m㍓ マイコシールド 6 6 g	3 日前 3 0 日前 2 8 日前	2 回 5 回 5 回		せん孔細菌病 黒星病、灰星病 モモハモグリガ ハマキムシ類 シンクイムシ類	
4	月 日	5 月中旬 (前回から 10 日後)	展着剤 1 0 m㍓ モスピラン顆粒水溶剤 2 5 g トレノックスフロアブル 2 0 0 m㍓ マイコシールド 6 6 g	3 日前 3 0 日前 2 8 日前	3 回 5 回 5 回	4 0 0	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類幼虫	
5	月 日	5 月下旬 (前回から 10 日後)	展着剤 1 0 m㍓ トレノックスフロアブル 2 0 0 m㍓ ハチハチフロアブル 5 0 m㍓ マイコシールド 6 6 g	3 0 日前 前日 2 8 日前	5 回 2 回 5 回	5 0 0	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	① もも混植園 黒星病（うどんこ病）発生園は、コロナフロアブルの 500 倍を加用する。 ②カイガラムシ類 発生園は、ハチハチ F に代えて、コルト顆粒水和剤の 2,000 倍（前日、3 回）を使用する。
6	月 日	6 月上旬 (前回から 10 日後)	展着剤 1 0 m㍓ アルバリン顆粒水溶剤 5 0 g トレノックスフロアブル 2 0 0 m㍓ マイコシールド 6 6 g	前日 3 0 日前 2 8 日前	3 回 5 回 5 回		せん孔細菌病 黒星病、灰星病 シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類	
7	月 日	6 月中下旬	展着剤 1 0 m㍓ トレノックスフロアブル 2 0 0 m㍓ ダーズバン DF 3 3 g スターナ水和剤 1 0 0 g	3 0 日前 1 4 日前 7 日前	5 回 2 回 3 回	6 0 0	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 ハマキムシ類 シンクイムシ類	①早生種（メイグラント、サマークリスタル等）は、トレノックスフロアブルに代えて、ベルコートフロアブルの 2,000 倍（前日、2 回）を使用する。 ②晩生種で、せん孔細菌病 多発園は、スターナ水和剤に代えてマイコシールドの 1,500 倍（28 日前、5 回）を使用する。
8	月 日	7 月上旬	展着剤 1 0 m㍓ ナリア WDG 5 0 g イカズチ W D G 6 6 g	前日 前日	2 回 2 回		灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	①ナリア WDG はぶどう（ピオーネ、サニールージュ）、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じるため、飛散しないよう注意する。 ②ハダニ類 発生園はコロマイト乳剤の 1,000 倍（7 日前、1 回）を加用する。
9	月 日	7 月中下旬	展着剤 1 0 m㍓ オンリーワンフロアブル 5 0 m㍓ エクシレル S E 2 0 m㍓	前日 前日	3 回 3 回		灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 モモハモグリガ	①ハダニ類 発生園はダニゲッターフロアブルの 2,000 倍（前日、1 回）を加用する。 ＊ダニゲッターフロアブルは、「シャインマスカット」や「開花期の水稻」に薬害を生じるため、飛散しないよう注意する。
10	月 日	8 月上旬	展着剤 1 0 m㍓ フルーツセイバー 5 0 m㍓ アーデントフロアブル 5 0 m㍓	前日 前日	3 回 3 回		灰星病、黒星病 シンクイムシ類 カメムシ類	
11	月 日	8 月中下旬	展着剤 1 0 m㍓ アルバリン顆粒水溶剤 5 0 g オーシャインフロアブル 5 0 m㍓	前日 前日	3 回 3 回		灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	① もも混植園 ミカンキイロアザミウマ 発生園は、ディアナ WDG の 10,000 倍（前日、2 回）を加用する。
12	月 日	9 月上旬	展着剤 1 0 m㍓ ベルコートフロアブル 5 0 m㍓	前日	2 回		灰星病 ホモプシス腐敗病 黒星病	①シンクイムシ類 発生園は、アーデントフロアブルの 2000 倍（前日、3 回）を加用する。
13 14 15	月 日	収穫終了後 9 月 上中旬～ 1 0 月 上旬 3 回散布	アビオン E 1 0 0 m㍓ IC ボルドー 412 3. 3 kg ダイアジノン水和剤 34 1 0 0 g	— 2 1 日前	— 3 回	6 0 0	せん孔細菌病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ若齢幼虫	＊ダイアジノン水和剤 34 は 1 回目散布のみ使用する。 ①アビオン E に代えて、KK ステッカーの 3,000 倍でもよい。（KK ステッカーは必ず最後に調合する） ②I C ボルドー 412 に代えて、ムッシュボルドー D F の 500 倍（開花前まで）でもよい。薬害が心配される場合は、クレフノンの 100 倍を加用する。 ③コスカシバ 発生園は、フェニックスフロアブルの 500 倍（開花期まで、1 回）を樹幹部及び主枝に十分散布する。

当防除暦の複製・コピーを禁止します